

《1月の行事予定》

1	金	休園
2	土	休園
3	日	休園
4	月	仕事始め
5	火	身体測定(つぼみ組)
6	水	身体測定(すみれ1組)
7	木	防災会議 避難訓練・身体測定 (すずらん2組、たんぽぽ組、幼児クラス)
8	金	身体測定(すずらん1組、幼児クラス)
9	土	
10	日	
11	月	成人の日
12	火	身体測定(すみれ2組)
13	水	すずらん組面談開始
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	3歳以上児面談開始
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	ふたば保育研究会
24	日	
25	月	千葉市保育協議会緑区会議(園長)
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	



《お知らせ・お願い》

【登園許可書について】

インフルエンザや感染症が流行する季節になりました。小学校ではインフルエンザの登園は療養報告書(発症日から5日経過、解熱後2日経過している)を保護者が記載して登園できますが、保育園では医師の「登園許可書」が必要な病気に指定されていますので、必ず登園の際には「登園許可書」をご持参ください。

【進級に向けての個別面談実施について】

1月中旬より希望者の個別面談をすずらん組、3歳以上児クラスを中心に行います。進級に向けてご相談のある方は担任へ声をかけて下さい。

【新型コロナウイルスについて】

ご家族が新型コロナウイルス感染症濃厚接触者・PCR受検者となった時、新型コロナウイルスと診断されたときは保育園へお知らせください。

【千葉市における臨時休園の判断基準(R2.8.5時点)】

- ・園児、職員の家族や友人が濃厚接触者・PCR受検者となった場合も保育園は開園します。登園は可能ですが、自宅待機を推奨しています。
- ・園児、職員本人が濃厚接触者でPCR受検者となった場合、開園しますが対象者は検査結果が陰性でも2週間の自宅待機となります。(保健所の指示があります)
- ・園児、職員本人がPCR検査陽性で、最終登園日から0～2日目に発症した場合、保育園は臨時休園となります。

【感染症の流行予防にご協力ください】

- ・保育園での集団生活では感染症はあっという間に広まってしまいます。たえず出ている咳・鼻水・発熱・下痢等体調が優れない時はご家庭で療養してください。37.5度以上の発熱があった場合、解熱後24時間が経過するまでは、ご家庭で様子を見てください。
- ・保育園の適正利用が推奨されています。感染防止の観点からも、ご家庭で保育できる日や保育できる時間は家庭保育のご協力をお願いいたします。用事があるときに保育園は利用できますが、千葉市からの通達の通り9時～16時の利用をお願いします。
- ・入退室の際は手指のアルコール消毒をお願いします。
- ・風邪症状のある方の送迎はご遠慮下さい。どうしても場合は事務室にご連絡下さい。



新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルスの影響で例年よりご家庭で過ごされたご家庭が多いお正月だったことと思います。今年も職員一同、どうぞよろしく願いいたします。これから本格的な寒さが続きます。まだまだ、新型コロナウイルス感染や感染性胃腸炎、風邪をひきやすい季節です。健康管理には十分気をつけて過ごしましょう。

《見守る子育て（保育）とは・・・》

園長 篠原郁子

昨年もお知らせしましたが、子育てには見守ることが大切です。見守るには大人の忍耐と配慮がたくさん必要になります。「見守る」とはどういうことなのでしょう？ 「保育の起源」世界文化社 藤森平司氏より抜粋

- 1.子どもがやろうとするときに、それを自分の言葉で言うことを待ってあげ、自分からやり始められるように環境を整えてあげます。
- 2.子どもが問題を抱えているときに、それを取り除いてあげようとするのではなく、自分で解決できるように援助してあげます。
- 3.子どもが何を考えているかを、いつも先回りして考えるのではなく、子どもの考えを聞いてあげます。
- 4.子どもが誰かとトラブルを起こした時に自分の子どもだけを正当化しないで、冷静に判断しましょう。
- 5.子どもは何かものを与えれば喜ぶのではなく、気持ちをわかってもらうことを望んでいます。
- 6.子どもは自分でできることや、自分でやろうとすることを手伝うことは、子どもにとっては迷惑です。
- 7.子どもには、それぞれの年齢で学ぶべきことがあります。早めにやらせようとするのは、かえって、時期を遅らせることになります。
- 8.発達には順序があります。ある時期の発達を飛ばしてしまったり、順番を逆にしてしまったりすると、将来発達にねじれを起こしたり、後戻りをしたりしてしまうことがあります。

子どもがやることに、いつも罰を与えたり、褒美をあげたりすると、それが目的になってしまい、それがなくなるとしなくなることがあります。

- 10.子どもには、やってあげるよりも、やることを見守ることが大切です。

乳児期は手をかけなければいけません、子どもを育てるということは、この手を徐々に引いていくということかもしれません。その時期が、早くても遅くてもいけないのです。子どもをよく見て、どこまで自分でやれるのだろうか、どこまで自分でやろうとするのか見極めることが必要なのです。そして、必要とあれば手を添え、心を添えてあげます。それが、「見て」「守って」あげることなのです。とても大変ですが実践してみてください。よろしくお願いいたします。

ふたば保育園は、この1月1日には開園18周年を迎えることができました。今年も子どもたちの豊かな遊び（学び）を保障する保育の資質向上と子どもの気持ちに寄り添う見守る保育を心がけ、令和3年も子どもたちと保護者様にとっても良い1年になることを願っています。引き続き保護者の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。